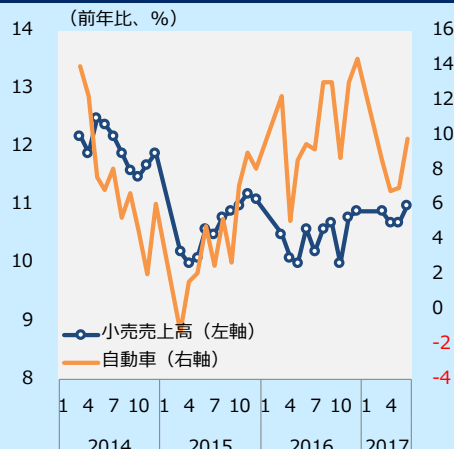
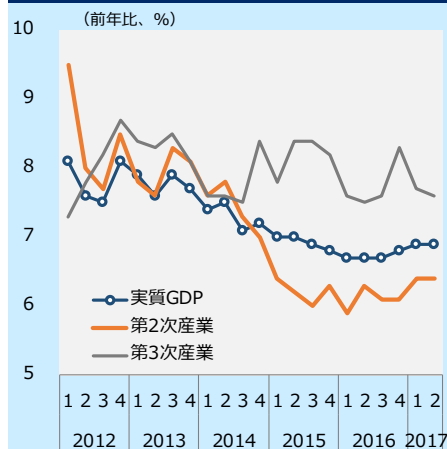


# 中国：GDP(17年4-6月期) —好調な消費などを背景に、底堅く推移—

## MRI Daily Economic Points July 18, 2017

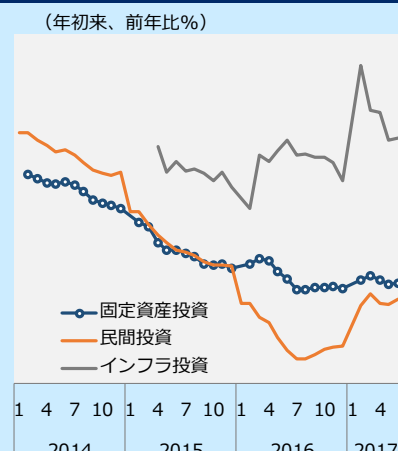
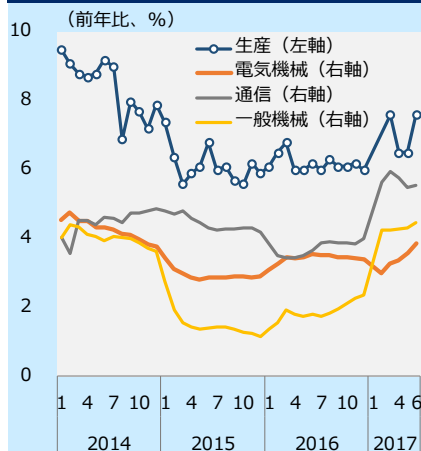
### 国内総生産（四半期）

### 消費（月次）



### 生産（月次）

### 投資（月次）



### 評価ポイント

#### 今回の結果

- 中国の17年4-6月期の実質GDP成長率は、前年同期比+6.9%と前期から横ばいとなった。第2次産業も同+6.4%と前期から横ばい、第3次産業は同+7.5%と前期(同+7.6%)からやや成長が鈍化したものの、高い伸びを持続。産業別に成長率をみると、金融引締めによる影響から不動産や建設業の成長率が低下傾向となっているが、EC消費の拡大が続いていると考えられるなど、民需は堅調に推移している。
- 各種経済指標の結果も堅調。1-6月の小売売上高は、前年同月比+11.0%と前月(1-5月期:同+10.7%)から伸び率が上昇した。好調な企業業績を映じて賃金が上昇、家計の実質可処分所得も堅調に推移(17年1-3月期:前年同期比+7.0%)しており、小型車減税縮小による反動減の影響が残る自動車もやや持ち直すなど、幅広い品目で消費が増加している。
- 5月の鉱工業生産は、前年同月比+7.5%と前月(同+6.5%)から伸び率が大きく上昇した。世界的なITサイクルの改善から、電気機械や通信の生産増が続いている。
- 1-6月の固定資産投資は、前年比+8.6%と前月から横ばいとなった。民間投資は金融引締めによる影響もあり伸び率の上昇が一服している。一方、インフラ投資は17年初と比べ伸び率が鈍化しているものの、依然として同+21.1%と高い伸びを続けている。

#### 基調判断と今後の流れ

- 中国経済は、金融引締めが経済の下押し圧力となっているものの、地方政府によるインフラ投資の進捗やITサイクル改善による電気機械の生産拡大などから、総じてみると底堅く推移している。
- 先行きは、政府による企業負担軽減策の波及などから、政府の人事が決まる17年秋の党大会までは底堅い成長が続くものと予想する。ただし、インフラ投資の拡大は政府や国有企業の債務拡大につながる恐れがあり、先行きのリスクは高まっている。党大会後に習氏の権力基盤が強化され構造改革を推進する姿勢が強まれば、18年以降は緩やかな減速傾向に復する可能性が高い。